

《総長候補者所信表明》

The opinion to be the Chancellor by Chancellor Candidate

【候補者 Candidate】

所属 Affiliation	立命館大学 総合理工学院生命科学部	職位 Job Title	特別招聘教授 総合理工学院長 生命科学部長
フリガナ 氏名 Name	タニグチ ヨシヒロ 谷口 吉弘 谷口 吉弘		
年齢 Age	68 歳	学位 Degree	工学博士（立命館大学）
研究分野 Research Field	物理化学、高压化学、生物物理学		

【所信表明 The opinion to be the Chancellor】

（＊日本語の場合は 2,000 字以内／In English, within 650words）

今、立命館学園で学ぶ学生・生徒にとって学びがいがあり、立命館学園で働く教職員が教えがい・働きがいがあり、社会に支持され、また、高く評価される学園作りのために、全学構成員の英知を集めて、全力で取り組んでいる学園ビジョン「R2020」は、立命館憲章に基づき、日本や世界での高等教育事情を見通した、国際的にも通用性を有することが必要です。この学園ビジョンの実現には、全学構成員の協力なくしては実現不可能で、とりわけ、一つの目標に向かって教職協同を通して力を合わせることもなによりも重要だと考えています。

学園ビジョン[R2020]の前半期に相当する 2015 年を目途に、立命館学園が、取り組むべき重要課題は、あらたな地平を切り開く教育・研究の展開とそれを保障する人的かつ教育研究環境条件の整備と「ゆとり」あるキャンパスの実現に着手することです。

教育の展開では、各学部・学校において、小中高大院の一貫教育である総合学園の強みを活かし、広く日本や世界の地域から支持され、またその要請に応えられる学びの仕組みの構築です。このためには、初年次教育を強化するとともに、国際的視点に照らして、それぞれの分野における専門知識とその技術の習得に加えて、不透明、不確実な時代を生き抜くための高い教養と倫理観の育成です。厳しい競争社会で活躍できる学生を育てるには、確かな専門知識のうえに、国際社会で通用する高いコミュニケーション能力の育成が何より必要で、立命館大学が長年取り組んできた小集団教育を卒業研究にまで展開して、一層の充実を図る必要があります。教育にける国際化の視点は避けて通れない課題です。G-30 に代表される国際化の課題は、立命館アジア太平洋大学（APU）にその先例を学び、APUとの連携を強化する中で、国際化におけるリーディング大学を目指すべきでしょう。

研究は、大学院生や若手研究者を巻き込んだ重層的かつ戦略的研究政策により、世界的な研究へと展開することです。そもそも研究は、研究者個人の自由な発想に基づいておこなわれるべきものであり、研究者個人への研究基盤整備の立場から、科学研究費獲得のための研究者個人への支援の強化は大学評価の観点からも重要です。また、わが国の発展にとって必要な国家戦略プロジェクトを研究政策に取り入れ、いち早く対応することが求められます。立命館大学で展開している G-COE や R-GAIRO などの活動は高く評価でき、研究成果を世界に向けて発信できる大学院教育と連動して更なる発展を図る必要があります。また、社会的に広い支持基盤を有する立命館大学の強みをもとに、外部資金の獲得とともに産学連携による研究力の一層の向上をはかり、社会の期待に応えることが求められます。

これらの教育研究の展開には、ソフトとハードの側面から、「ゆとり」ある環境整備が必要です。まず、教員当たり学生比率(ST比)の改善は優先されるべき課題です。1994年以降、BKCへの理工学部とそれに続く経済・経営学部の移転により、衣笠キャンパス、BKCとも、「ゆとり」あるキャンパスとして生まれ変わるはずでしたが、その後の新設学部と大学院の展開により、食堂問題をはじめとして教育研究の物理的環境条件はきわめて厳しい状況にあります。今後、学習図書館構想とキャンパスアメニティの向上を視野に入れた教育研究環境の改善は必要不可欠で、とりわけ衣笠キャンパスにおける狭隘化は学園ビジョン「R2020」の前半期に解決しなければならない課題です。

学生・生徒の学びとともに教職員が「ゆとり」をもって教えがい、働きがいのある学園を創造するためには、ハード面の改善の取り組みもさることながら、教職員が「ゆとり」ある時間を生み出さうる仕組み作りに取り組む必要があります。学園政策へ全構成員の意見の反映を担保したうえで、多キャンパスに渡る管理運営について新たな意思決定のあり方について検討されるべきでしょう。

2005年以来、学園関係者相互間で、厳しい対立が生じ、学園としての一体感がそこなわれたことは、わが学園にとつてきわめて不幸な出来事といわざるを得ません。学園の創造には教職員の理解と協力は欠かせません。今こそ、教職員が立命館の建学の精神「自由と清新」と教学理念「平和と民主主義」のもと、一体感をもって、ひとつの目標にむかつて協力することが強く求められています。今次の新しい総長選挙の実施により、学園関係者相互の信頼回復の道が開かれ、立命館学園で学ぶ学生・生徒、立命館学園で教え・働く教職員すべてが、新しい総長の下で、一致団結して、新しい教育研究の地平を切り開き、誰もが希望に満ちた学園創造に参加されることを、切望いたします。

以 上

※この届出用紙は、総長候補者公示の際に、公報として原紙のまま掲載いたします。